42 8. 26　　No. 445

昭和42年8月26日発行　第445号　毎週土曜日刊　とかち新聞　昭和33年6月27日第三種郵便物認可

とかち新聞

主筆　松山明

発行所　北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話1351番

本紙定価　1部20円　1カ月50円　1カ年前納500円

新構造政策を批判　美濃政市氏

郷土入りの両代議士の国会報告会

中川一郎氏　芽登営林署は難しい

中川一郎代議士は来町

○…これまでの中川代議士は来町都度どちらかといえば自民党主流派にたいして批判的で、佐藤首相以下にたいする遠慮のない非難の発言すらあったほどで、なかなかの受け狙として妙な人気をもたれていましたが、こんどはガラリと調子をかえて社会党や労組にたいする攻撃にほこ先を転換した形で…しかしそのなかで、芽登営林署が実現しないのは会林野労組が反対したためだというのは少しオーバーな感じで、当時は芽登地区には医療機関も娯楽施設もなく高校への通学も不便なので、そう尾に先を越されたといわれ、その後は林野会計の赤字のために営林署の新設どころか営林署の統廃合が云々されるようになってダナあ…設置するかしないかの決定権を持っているのは時の政府であり、その基党であって、その職場がふえるのに反対する労組はどこの世界にあるかということで、本名武代議士が農林水産委員長のポストにもあるので、ともに力を合せて芽登営林署がスンナリと芽登不可能を可能にするためにガンバッてもらいたいものです。

○…足寄大地区に用地を物色していたが芽登地区の誘致期成会では現地に設置してほしいということで町で事業は芽登と喜登牛でという帯で、むしろ芽登営林署の新設を設置しているのが会林野労組の統廃合強化に反対しているのは政府、自民党だということになります。

○…芽登営林署がスンナリと芽登地区に設置されることがもっともッてもらいたいものです。

広営林局の計画で芽登坂道路下の

全林野労組を攻撃

中川一郎足寄後援会の本年度定期総会は八月二十八日午前九時三十分から足寄町消防会館に会員約百名があつまってひらかれ、前田良三会長のあいさつがあって議長に土田今吉氏を推して西田正夫幹事長から経過報告があり、規約の一部を改正して役員改選に入り、選考委員に小野武治（市街）遠国喜一（平和）岡本清（稲牛）大力野尚（総府）南盤清一（白糸）横田文治（大椴）井光三郎（斗伏）横田文治（大椴地）の七氏をあげて選考の結果

▲名誉会長　前田良三

▲会長　我妻茂治

▲会長代理　西田正夫、小野武治、遠国喜一郎

▲副会長　遠国喜一、西村彦太郎、横田文治、岡林頼頭、市川貞一郎、野口寿雄

▲幹事長　安久津政人

▲副幹事長　大野耕太郎

▲事務局長　土田今吉

▲会計幹事　満仁崎浮次

の各氏を決定、自民党足寄支部長の目黒庄太郎氏から挨拶があって中川代議士の国会報告の演説があり、このあと会場をにいつ旅館にうつして懇親会をひらいて正午すぎに閉会しました。

この日の中川代議士の発言要旨はつぎのとおり。

一、予算については社会党のように親みとする組織はなく、自分は後援会だけなので下ごしらえの場合は足寄を地元とする農本国の大氏が立ち農民組織を背景に美濃政市氏が出たので相当に喰われるものと思ったがいわずかに百票程度のマイナスで予想としてはもっと落ちるものと思っていただけに、後援会のみなさんのおかげと感謝にたえない。

一、社会党は完全な分裂状態であるのにたいして、自民党は派閥が多くなって返って派閥がなくなったようなものである。

一、芽登営林署は全道で十四の新設のうち上位にあったのだが、

農民切捨てに対処

社会党演説会

日本社会党演説会は八月二十四日午後三時から足寄町農業協同組合会館室に五十余名の聴集があつまってひらかれ、農産問題を中心にして美濃代議士の国会報告、新村道議の道政報告がおこなわれ、これにたいする質疑応答があって午後六時すぎに散会しました。

美濃代議士は『農林大臣から一週前に出された重要問題を先に申し上げたい』として、「農林大臣談話要旨」「構造政策の基本方針案」「付属参考統計表」などの分厚いプリントを会場に配布してから、

一、農林大臣が新しい構造政策を打ち出して、昭和四十年代は全面的な国際自由化の時代であるとして、先般妥結をみたガットの関税引下げやこんどの後進国との貿易拡大問題に対処するために国内農業の保護政策の緩和が要請されているとして、農業の保護政策をやめてゆく方針を明らかにした

一、たとえば甜菜を例にとれば、輸入粗糖は一キロ四十一円五十銭の関税が五割引下げで二十円七十五銭の引下げとなるので国内のビート価格に影響し七千二百円は維持できなくなる

一、日本の農業が国際競争に耐えうるためには規模を拡大して体質を改善すべきであるとして、本道の場合は水田農家は四ヘクタール、畑作農家は二十ヘクタールに、酪農家は十五頭飼育にして八十六万円以上の所得とするために

昭和四十年現在で五百六十六万五千戸の農家を昭和六十年には四百二十万三千戸にするというもので、主とし専業農家百四十六万二千戸を減らそうとしている

一、早ければことしの十二月に末端の町村にこの計画が示されるだろうが、個々の農家の転職について町村長が責任を負うことはできない

一、このために私は帰道にさいして倉石農林大臣に面会を求めたところ三十分くらいならという

ので会い、農家が転職するとすれば工業方面となるがそれらの受け入れ態勢を確かめたがまだ煮つまっていないという、職業の位置づけができていない

一、酪農家を乳牛十五頭にするといっても、国際自由化によってニュージーランドやオーストラリヤのように年中草がはえていて三戸で何千頭も飼育している国から安い乳製品が入ってくるのでは、国内の酪農は立ちゆくものではない

一、EECに加盟のヨーロッパの諸国間では経済協同体としてお互いに垣根をはずしているが、ことに自国の食糧生産に関しては完全な保護政策をとっているのに、特にわが国のように輸入の三分の一は食糧である現状にあっては西欧諸国以上の農業保護政策はつづけなければならない

農民年金などは農業政策のスリ替えであり、農民切り捨ての

とんでもない構造政策にたいしては断固として対処してゆきたい

と、八月に入って倉石農相が打ち出した構造政策にたいして説明と批判をしました。

なんでも反対ではない

つづいて美濃代議士は、

このたびの国会には百七十一件の法案が提出され、社会党では

はこのうち健保特例法と国有林活用法と矢保改正法の略案をめ

ざしてたたかったが、

一、国会は土、日、月の三日間はひらかれないので一週間に四日間だけ委員会があるが、参両院となるので正味は週に二日間となりどうしても会期が長くなる

一、最大の問題となった健保特例法は二百七十億円の赤字のため

全林野労組が芽登には医者がいない、鉄道がない、高校がないなどといって反対したので実現しなかったもので、実現は難しい。

鉄砲虫のように存在で、木材業者をもうけさせたりつぶしたりで幹部は悪質なものである

一、酪農家を乳牛十五頭にするといっても、国際自由化によってニュージーランドやオーストラリヤのように年中草がはえていて三戸で何千頭も飼育している国から安い乳製品が入ってくるのでは、国内の酪農は立ちゆくものではない

一、EECに加盟のヨーロッパの諸国間では経済協同体としてお互いに垣根をはずしているが、ことに自国の食糧生産に関しては完全な保護政策をとっているのに、特にわが国のように輸入の三分の一は食糧である現状にあっては西欧諸国以上の農業保護政策はつづけなければならない

農民年金などは農業政策のスリ替えであり、農民切り捨ての

とんでもない構造政策にたいしては断固として対処してゆきたい

と、八月に入って倉石農相が打ち出した構造政策にたいして説明と批判をしました。

なんでも反対ではない

つづいて美濃代議士は、

このたびの国会には百七十一件の法案が提出され、社会党では

はこのうち健保特例法と国有林活用法と矢保改正法の略案をめざしてたたかったが、

一、国会は土、日、月の三日間はひらかれないので一週間に四日間だけ委員会があるが、参両院となるので正味は週に二日間となりどうしても会期が長くなる

一、最大の問題となった健保特例法は二百七十億円の赤字のため

というがミサイル視をうくっておりながら検査、政の後退はあり得ない財政難だといいながら大企業にたいしては五千億円もの特別減税措置を講じており、その一割を増徴すればよいのである。農産物の利益をあげれば三割が利益をあげれば三割も課税されるのに大企業にたいしては六%程度しか課税していない。

（以下第二面へ）

ミリ　カメラ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り　T420

各産地から秋物衣料を大量に仕入れして参りました
初秋の衣料の御用命は是非定評ある製品から御選び下さい
株式会社　前田呉服店
足寄駅前　電話三番

近代住宅に奉仕する
建具　建材　サッシ
桜井建具店
桜井正夫
足寄町北5区
電話362番

お気軽るにお立ち寄り下さい！
こまち食堂
学生さんにがきり　ラーメン六十円
足寄町大通り道東バス車庫となり
板谷美枝子